

「自然の恵み 海の幸」恵海だより 第2号

ブログ：<http://marine-ac.seesaa.net/>

平成 18年 5月 18日発行

〒039-0841

発行：青森県立海洋学院

八戸市大字鮫町字下盲久保 25-131 電話 0178-33-0049 FAX 0178-33-2695

《漁村交流現地派遣事業：漁業者宅等へホームステイ体験》

5月9～11日にかけて、青森県漁業士会日本海支部(山下幸彦支部長)の全面的なご協力により、海の男を目指しました。

14名の学院生は2名ずつ、漁業士等宅に宿泊し、10日早朝から漁船等で底建網、エビ籠漁などを体験しました。

交流先での漁業士の方の生活に触れ、また、自分の地先とは異なる魚種を見たり、知らなかった漁業の体験に刺激を受けていました。



学院生活は、始まったばかりで漁労技能も未熟だったため、大半の学院生が秋の第2回目のホームステイ体験では、海の男として成長した姿を見せたいと再会に向けた決意を新たにしていました。

職員、学院生が一丸となって、礼節と漁労技能について、実習等で鍛えていきます。

《船舶安全衛生講習会》

4月26日 八戸市水産会館にて、表記講習会に参加しました。

講習会では、救急実演に学院生が積極的に参加していました。



救命具は海の命綱

《旬の風景：すき昆布づくり始まる》

5月の中旬から鮫名産のすき昆布づくりが始まりました。

鮫在住で同窓生の佐藤義明氏(前身の水産修練所17回生)宅では、家族と近所のお手伝いを受けて、すき昆布づくりに精を出しています。

今年は、水温が低く少し開始が遅くなったものの、昆布の成長は良く、良い製品が期待されるとのことでした。



鮫のすき昆布を食べよう!

《海洋学院のある風景：田村まさよし画伯提供》

「海から拓けた町八戸の原点である鮫地区にある
西宮神社と海洋学院」

三戸町在住の田村まさよし画伯（第一美術協会正
会員）が八戸の海を題材に描いた水彩画から。

田村画伯は、三戸町を中心としたふるさとの風景
を描き、築約九十年の旧農家を活用した自宅兼アト
リエを開放、個展などを開いています。



《恵比寿浜や～ 学院生の俳句》

学院の近くにあるシーガルビューホテル主催のシーガル文化祭作品に学院生の俳句を応募しました。課題：次世代に残そう郷土の美しい自然「ふるさとの自然賛歌」残念ながら受賞は出来ませんでした。学院内での優秀賞は下記の2題でした。

「今もなお 漁民を守る 鯨石」 中村

「よみがえる 鯨伝説 恵比寿浜」 木浪

隣接する海のえびす（鯨）にちなんだ歴史に思いを馳せていました。

《蕪島だより：ウミネコの子育ての季節》

菜の花の黄色に抱かれて、ウミネコの子育てが始まりました。

5月10日頃からは、蕪島と海洋学院に囲まれたこの海域で、養殖されている昆布が収穫され、すき昆布に加工されています。



島を覆う菜の花の黄色

《今後の予定等》

◎ガス・アーク等溶接実習・講習（青森県立八戸工科学院）

5月15～25日の間、実技3日間、講習6日間を実施中です。

労働安全衛生関係法令に基づいた技能取得を目指すものです。

◎実習船みどり上架整備

5月中旬実施。本整備及び上記溶接等実習・講習が終了後、本格的な沿岸の漁業実習が開始されます。学院生も楽しみにしているものです。



溶接実習中(安全第一)